

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：尾崎 環

所属： 荇田町立馬場小学校

課題名： ふやそう殿川メダカ

1. 課題の主旨

校区を流れる殿川の汚れや絶滅が危惧されているメダカの生態を探るなかで、荇田町の環境を守るために自分達が調べたりやってみたいことを見つける事ができた。その課題の追求過程で、実験や観察の技法を学ぶとともに、専門的知識を持つ方や地域の方と交流したりする活動を通して、命の大切さや環境問題を自分の問題としてとらえ、地域の一員として自分達がなすべき事を考え、実行に移すことを目的とした。また、このような活動の発展として、校内で飼育し増やしたメダカを再び殿川に放流し、きれいな殿川の環境を取り戻す活動を地域と連携して行いたいと考えた。

2. 活動状況

①殿川環境について調査を行った。

- 校区を流れる殿川環境と生き物について調べ、生き物にあった環境について考えた。
→ゴミが散乱して水質が低下している。メダカがほとんど見られない。
(課題) このままでは殿川のメダカが絶滅してしまう。自分達ができることを考えよう。



②「殿川メダカを守ろう」のテーマにそって、メダカの住みやすい場所について調査・研究を行った。

- 馬場小の「メダカ池」には、どんな生き物がいるか調査を行った。
メダカ池の生き物や水中に生えている植物（藻など）、メダカ池の周辺で見かける生き物や植物について調べ、メダカの住みやすい条件について考えた。
- メダカにとって住みやすい環境についての資料の収集を行った。
インターネットや書籍を活用してメダカが住みやすい環境をまとめ、殿川との環境を比較して殿川の解決すべき問題点を考えた。
- メダカが住みやすく、より産卵しやすい環境を人工的に作り出し、産卵させるように飼育するとともに、増やすことができたメダカを地域の方とともに殿川に放流した。
教室内の水槽で、条件を変えてメダカを飼育するとともに、チームごとにアイデアを出し合っ
てメダカにとって住みやすく、産卵しやすい馬場小メダカ池の改造を行った。

(島チームの活動)

メダカ池にメダカの隠れ家になる島の作成



(水車チームの活動)

メダカの飼育に必要な水流を起こすための水車の作成



(屋根チームの活動)

強い日差しを遮るペットボトル屋根の作成



(竹炭チームの活動)

水を浄化する竹炭づくりとその効果調べ



(環境チームの活動)

環境作りのため池の周りに花を植えたり、ベンチや柵を作成



(看板チームの活動)

メダカの保護を訴える看板の作成



3. 結果

- 活動の成果を「環境シンポジウム in かんだ」(荇田町環境保全課主催：17. 2. 23実施)や「荇田町環境会議」(荇田町環境審議会主催：18. 7. 2実施)にて発表することができた。シンポジウムの子ども会議では、活動の様子を発表し、近大工学部依田教授より助言をいただいた。また、環境会議では、住民の方より多くの高い評価をいただくことができた。
- この活動を通して、身近な環境に興味を持ち、その中に潜む環境問題に目を向け、自分なりに調べて、今後どう行動していくかをしっかりと考えるようになったことなど、子どもたちの意識に大きな変容が見られたことが成果の一つとしてあげられる。また、自分のふるさとの環境を守っていくために、地域の方々と連携することの大切さを体験を通して実感したことも子どもたちの大きな財産になった。

4. 今後の課題と発展

- 「メダカやホタルの住むゴミのない美しい荇田町」をめざして、今後も、メダカの飼育と放流、殿川の環境調査の継続を図りたい。そのために、専門家による指標生物をもとにした環境調査の実施等に積極的に取り組みたい。
- 荇田町環境審議会の活動と連携し、本校での取組を定期的に環境会議等で報告し、環境美化への住民の協力をお願いしたい。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

子ども達の充実した活動を支えていただきありがとうございました。特色ある学校づくりに資することができました。